

CASBEE[®]新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.3)

1. 建物概要

建物名称	新潟医療福祉大学(仮称)第8研究・実習棟	
建設地	北区 島見町字大道1355番1外	
用途地域	第1種中高層住居専	
建物用途	学校,	
竣工年	2014年3月 予定	
敷地面積	72,337.05 m ²	
建築面積	972.58 m ²	
延床面積	2,506.52 m ²	
階数	地上3F	
構造	S造	
評価の段階	実施設計段階評価	
評価の実施日	2013年8月1日	

2. CASBEE新潟の評価結果

	B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{52}{39} = 1.3$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	3.0		バリアフリー	3.0
			維持管理	3.0
			更新性	3.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	3.0		耐震・免震	3.0
			信頼性	3.0
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	3.0		雨水排水負荷低減	3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	4.0		建物の熱負荷抑制	5.0
			自然エネルギー利用	3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	2.7		節水	3.0
			リサイクル材の使用	1.0
			再利用可能性向上	4.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	4.0		生物環境の保全・創出	4.0
			敷地内温熱環境の向上	4.0
7. 新潟のまちらしさへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	2.5		まちなみ・景観への配慮	3.0
			地域性への配慮、快適性の向上	2.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

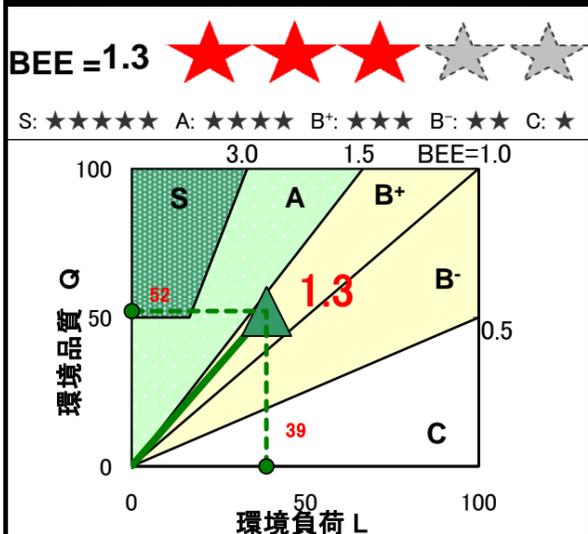
- 長寿化への取組み → 空調配管、給排水配管、通信配線ともに構造部材を傷めることなく更新可能である。
- 地震への取組み → 建築基準法に定められた耐震性を有する。
- 大雨への取組み → 大雨時に雨水が大量に中庭に流れ込み、土砂が流出する事を防ぐ為、可変側溝を敷設し集水する。
- 自然エネルギー利用の取組み → 該当なし。
- 資源環境への取組み → 主要水栓に節水コマを採用し、ODP=0の冷媒、ODP=0~0.01未満の断熱材発砲剤を使用している。
- 水と緑を活かす取組み → 既存植栽に加え、ケヤキによる法面強化や、シバザクラの密植やウバメガシの列植により、華やかで豊かな植栽を施す。
- 新潟のまちらしさへの取組み → 緑豊かな自然に恵まれた環境に立地しており、周辺景観を阻害しないよう配慮している。

CASBEE®新潟

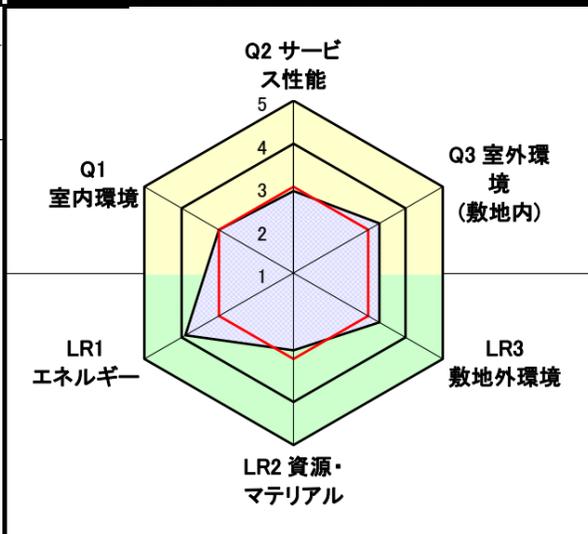
評価結果内訳

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.3)

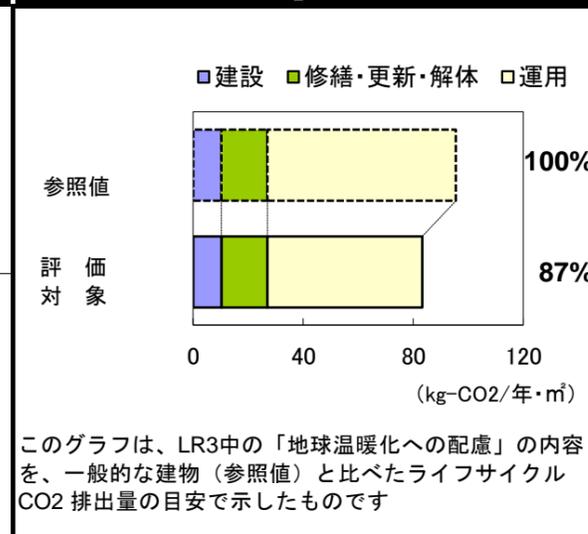
2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)



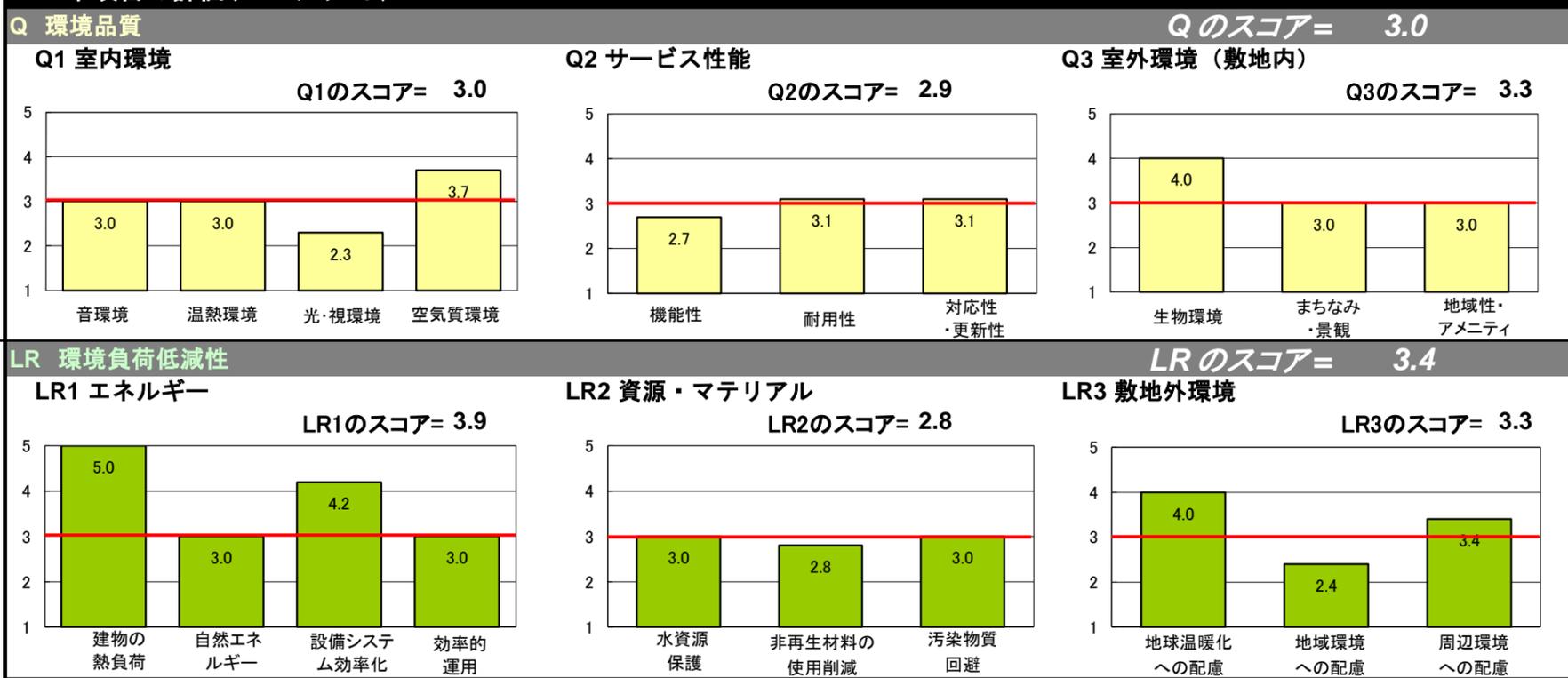
2-2 大項目の評価 (レーダーチャート)



2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)



2-4 中項目の評価 (バーチャート)



2-5 設計上の配慮事項

総合 周辺環境や地形の特質を最大限に活かし、既存校舎との調和や、既存の植栽に併せた樹種で適宜植栽を施すなど、明るく緑豊かなキャンパスとなるよう修景を図ります。	その他 高低差が有る既存校舎から増築校舎への移動は、段差昇降機(EV)を設置し、車いす利用者だけでなく、すべての人々に考慮したユニバーサルデザインとしました。
Q1 室内環境 建築材料は極力化学汚染物質を排除し、ほぼ全面的に告示対象外、及びF☆☆☆☆を採用しました。また、天井に吸音材を採用し、全面禁煙を行うなど、より良い室内環境となるよう計画しました。	Q2 サービス性能 多様な通信設備の採用や、節水型器具を採用した給排水など、利便性と機能性に加え、環境へも配慮しました。
LR1 エネルギー 複層ガラスを採用し、また、自然通風と採光を確保し、高効率照明器具等を採用しました。	LR2 資源・マテリアル 建築躯体の再利用は行わない為、資源生産性の度合いは低くなっていますが、断熱材はODP=0~0.01の物を使用するなど、汚染物質含有材料の使用回避にも極力努めました。
	Q3 室外環境 (敷地内) 多人数の往来を考慮し、入り口までの歩道を屋根付きとして整備しました。また、将来の動線を考慮し、歩道の整備やオープンスペースにノシバを敷込むなど、室外環境に配慮しました。
	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率84パーセントと、CO ₂ 削減と、大気汚染防止に努めました。また、可変側溝の設置により、高低差のあるキャンパス内の雨水排水対策を計画しました。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される